

## 令和2年度 指定管理施設運営状況評価表

### 1. 施設の概要

施設の名称	脇野沢瀬野牧野、脇野沢滝山牧野、脇野沢源藤城牧野、 むつ市営瀬野畜舎、むつ市営滝山畜舎、むつ市営源藤城畜舎		
指定管理者	団体名	一般社団法人むつ市脇野沢農業振興公社	
	代表者	理事長 二本柳 茂	
	所在地	むつ市脇野沢七引201番地5	
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	(1) 牧場施設、家畜管理施設の維持及び修繕 (2) 施設の使用許可 (3) 牧場施設、家畜管理施設の利用料金の収受		

### 2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。

単位：千円

区分	計画額①	実績額②	増減(②-①)
収入合計(A)	3,361	3,406	45
うち利用料金額	400	445	45
うち指定管理料	2,961	2,961	0
支出合計(B)	3,361	2,290	1,071
うち人件費	0	0	0
収支差(A-B)	0	1,116	1,116
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	・維持費等の経費節減に努力した。		

### 3. 施設利用の状況

	区分	計画①	実績②	増減(②-①)
利用者数	牧野利用戸数	0戸	0戸	0戸
	放牧頭数	0頭	0頭	0頭
	牛舎利用戸数	2戸	1戸	△1戸
	牛舎利用頭数	10,400頭	15,753頭	5,353頭
	畜舎利用房数	0房	0房	0房
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有(無))  牧場施設の利用者は現在1戸のみのため、利用者と協議し、畜舎の補修等を行い施設の維持管理に努めた。 家畜管理施設は、利用されていないため、保守管理のみ実施した。				

### 4. 自主事業の実施業況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	—	—
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

トラクター等作業用機械については、年数経過とともに老朽化が進み修繕費がかかるものの、事業遂行には必要不可欠であるため、できる限り修繕費を抑えながら機能の維持を図った。  
 牧場施設の利用法人と連携し、牛糞堆肥をそば畑に活用した。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

牛舎の管理については今後も事故のないよう管理に努めてほしい。作業用機械等の修繕に関しては、日々のメンテナンスにより最小限の修繕で済んでいるように思う。今後も作業用機械等の丁寧な管理を心掛けてほしい。